

## 院長より新年のご挨拶

新年あけましておめでとうございます。

皆様におかれましては、健やかに新春をお迎えのことと心よりお慶び申し上げます。旧年中は格別のご支援とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

昨年は、管理職メンバーの大幅な刷新をはじめ、リウマチ膠原病内科や形成外科外来、中央検査科の新規開設など、地域のニーズに応じた診療体制の充実に努めてまいりました。チームで支え合いながら診療を行える仕組みを整え、看護師特定行為やクリニカルパスの見直し、PFMを活用したタスクシフトも着実に進展しております。

本年はさらに、タスクシェアによる職員の業務負担軽減と患者様サービスの向上を目指します。院内Wi-Fiを活用した説明ツールの充実、病床管理支援システムによる入院状況の可視化と退院調整の適正化を進めるとともに、治療方針や看護計画、文書作成の負担軽減に向けてAI導入も検討してまいります。

救急医療においては「ほぼ断らない救急」を実現しつつあり、今後はさらなる充実を図ります。加えて、地域がん診療連携拠点病院としてがん診療にも注力し、放射線治療機器の更新やロボット支援手術の導入などを進め、地域の皆様に安心と信頼をお届けできるよう尽力いたします。

なお、本年は丙午の年であり、私自身も還暦という節目を迎えます。環境の変化に必死でついていく日々ではございますが、少しでも皆様のお力になれるよう、馬車馬のごとく働き続ける覚悟です。

皆様にとりまして、希望に満ちた一年となりますよう心より祈念申し上げます。本年もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

2026年元旦  
鈴鹿中央総合病院院長  
北村 哲也